

Ⅰ 中学校における学びと「学習指導要領」の改訂

中学校に入学したての生徒たちに、何を目標にして、どんな教材（学習材）を与え、どんな学習活動を組織すればいいかは、等しく国語教師の悩むところである。このことは、二年・三年に進級したての生徒たちに対しても、程度の差こそあれ、同じである。一年生を例にとると、中学校での生活と学習に期待と不安をもつ生徒たちに、

- ・早く中学校の生活に慣れてもらいたい。
- ・早く中学校の国語の学習に慣れてもらいたい。

と、教師は願う。そして、

- ・中学生になったという自覚を呼び覚まし、喜びを与えたい。
- ・中学校では、こんな学習をするのか・中学校での学習は、こうすればいいのかという安心感と自信を与え、希望をもって学習に参加してもらいたい。

と考え、それにふさわしい教材を探し、学習活動を組織する。一方、教師は、学習の出發にあたり、

- ・生徒たちの学力の実態を診断したい。
- ・生徒たちの個性を知りたい。
- ・生徒たちの学力の足並みをそろえたい。

とも考える。

従来、国語の教科書では、学年の初めの教材として、現代詩や現代文の物語・小説・随筆などが採用されてきた。これらも、右記の教師の願いや考えを反映したものだ。

ところで、今般、中学校の「学習指導要領」が改訂され、そこでは「伝統的な言語文化の重視」が謳われた。具体的には、

Ⅱ 新しい授業づくりに向けて

この小学校・中学校の「学習指導要領」の改訂を受けて、私たちの研究会では、これだけ小学校で古典教材の学習をするのならば、古典の和歌や俳句、古文や漢文を中学校の学年初めの教材として位置づけるのは可能ではないか、いや位置づけることに意味があるのではないかと考えた。それは、これだけ三・四年のときから短歌・俳句、古文、漢文に触れているのなら、学年の初めにあたって、

- ・生徒たちの学力の実態を診断したい。
- ・生徒たちの個性を知りたい。

など前述したような教師の意図に適うばかりでなく、教材と学習指導の方法とを工夫するならば、生徒たちに、

- ・中学生になったという自覚を呼び覚ます。
- ・中学校での学習に安心感と自信を与える。

という願いも実現できるのではないかと考えたからである。

そこで、学年初めには、どんな教材がふさわしいか、どんな学習活動が適切かを、小学校・中学校の「学習指導要領」を参照しながら、これまでの中学校での古典指導の実践を踏まえて検討した。その結果、

- ・教材（作品の種類）としては、小学校でふれたことのあるような作品を含め、古典の和歌や俳句、随筆や物語、漢詩や漢文。
- ・学習活動としては、音読・朗読を中心として古典のリズムや調べを味わい、情景や心情を想像する活動。

などを主な内容として、学習を組織することとした。

Ⅲ 新しい授業づくり—古典教材（作品）と学習活動の内容

以下では、中学校の「学習指導要領」を念頭に置きつつ、小学校で

〔第一学年〕

(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

(イ) 古典には様々な種類の作品があることを知る。

〔第二学年〕

(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。

(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

〔第三学年〕

(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。

(イ) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

などと示された。

これらは、次のような小学校の「学習指導要領」の改訂を受けたものである。

〔第三学年及び第四学年〕

(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。

(イ) 長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。

〔第五学年及び第六学年〕

(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。

(イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

の学習との連続性と中学校でこれまで扱ってきた教材（作品）と学習活動とを考え合わせ、一年から三年までの各学年について教材（作品）を選定し、学習活動の重点を取り出した。

一年

「学習指導要領」の「古典には様々な種類の作品があることを知る」。「古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れる」を受けて、やさしい古典の和歌や俳句、短い随筆や物語、そして広く知られている漢詩や漢文などの教材を用意し（小学校で学習しているものを含むのが望ましい）、音読を通して古典の世界に触れる学習活動をする。

二年

「学習指導要領」の「ものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像する」、「作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむ」を受けて、随筆「枕草子」と「徒然草」と漢詩「春望」や「絶句」を用意し、音読・朗読を通して古典の世界を楽しむながら、ものの見方や考え方、作者の思いなどに触れる学習活動をする。

三年

「学習指導要領」の「歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむ」、「古典の一節を引用するなど」を受けて、俳文「おくのほそ道」と、私たちの生活の中に生きている「論語」など中国の古典の言葉を用意し、音読・朗読を通して古典の世界に親しみ、作品世界の歴史的背景や言葉の意味を私たちの日常生活の中で考える学習活動を行うとともに、引用して自分の考えを補強したり説得力をもたせたりする活動を行う。

I 扱う教材

前記「新しい授業づくり―古典教材と学習活動の構想」にもとづき、各学年、以下の教材を用意した。

一年

〈詩〉

- ・春のうた（草野心平）
- ・朧月夜（高野辰之）

〈和歌〉―原文と現代語訳

- ・春過ぎて 夏来たるらし 白たへの 衣干したり 天の香具山  
（持統天皇）

- ・人はいさ 心も知らず ふるさとは 花ぞ昔の 香ににほひける  
（紀 貫之）

- ・世の中に 絶えて桜の なかりせば 春の心は のどけからまし  
（在原業平）

〈俳句〉―原文と現代語訳

- ・行く春や 鳥啼き魚の 目はなみだ（松尾芭蕉）
- ・春の海 ひねもすのたり のたりかな（与謝蕪村）
- ・めでたさも ちう位なり おらが春（小林一茶）
- ・若鮎の 二手になりて 上りけり（正岡子規）

〈随筆〉―原文と現代語訳

- ・「春はあけぼの」（「枕草子」第一段）
- ・「つれづれなるままに」（「徒然草」序段）

〈物語〉―原文と現代語訳

- ・「祇園精舎の鐘の声」（「平家物語」冒頭）
- 〈漢詩〉―書き下し文と現代語訳

- ・「春曉」（孟浩然）

〈漢文〉―書き下し文と現代語訳

- ・「吾、十有五にして学に志す」（「論語」為政）

〈物語〉―解説と原文、現代語訳

- ・「竹取物語」（冒頭ほか）

二年

〈随筆〉―原文と現代語訳、脚注

- ・「うつくしきもの」（「枕草子」第四百五十五段）

- ・「五月ばかりなどに」（「枕草子」第二百七段）

- ・「仁和寺にある法師」（「徒然草」第五十二段）

- ・「ある人、弓射ることを習ふに」（「徒然草」第九十二段）

〈漢詩〉―書き下し文と訓読文、詳しい脚注

- ・「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」（李白）

- ・「春望」（杜甫）

- ・「絶句」（杜甫）

三年

〈俳文と俳句〉―原文と現代語訳、詳しい脚注

- ・「月日は」（「おくのほそ道」冒頭）

- ・「平泉」（「おくのほそ道」平泉）

〈漢文〉―書き下し文と訓読文、詳しい訳

- ・「備へ有れば、患ひ無し。」（「書経」）

④内容の理解は、その場の様子や作者の思いの大意が捉えられればよいとし、細かな語釈や文法的な説明は最小限にしたい。

二年

①二年生の学年初めの教材も、リズムや調べに優れ、イメージを作りやすく、音読・朗読に適した教材を選んだ。特に、リズムや調べ、イメージや文体の上で対比的な「枕草子」と「徒然草」とを並べることによって、音読を通して、それらの違いに気づくように工夫した。

②漢詩は、七言絶句・五言律詩・五言絶句と形式の違う三つの詩を、書き下し文と訓読文とを並べた。これを音読することによって、それぞれの詩形のもつリズムや調べ、詩の構成法の違いなどに気づくように配慮した。

三年

①三年生の学年初めの教材も、リズムや調べに優れ、三年生の教材として定評のある「おくのほそ道」の旅立ちの場面と平泉の場面とを並べた。この両場面を音読し、比べることによって、作者の人生観・歴史観が学び取れるように工夫した。

②漢文は、日常生活の中で、生徒たちがよく目にし耳にする言葉を選んだ。リズムや調べが優れているので、音読を繰り返すことによつて暗唱にまで高めたい。また、言葉の意味を、具体的な場面に即して考えるようにさせたい。

③そのうえで、これらの漢文を引用し、文章を補強したり、説得力を高めたりする活動をさせたい。

・「百聞は一見に如かず。」（「漢書」）

・「虎穴に入らずんば、虎子を得ず。」（「後漢書」）

・「寧ろ鶏口と為るとも、牛後と為る無かれ。」（「十八史略」）

・「先ずれば即ち人を制し、後るれば則ち人の制する所と為る。」（「史記」）

・子曰く、「学びて時にこれを習ふ、また説ばしからずや。朋遠方より来たるあり、また楽しからずや。……」（「論語」）

II 指導のポイント

一年

①一年生の学年初めの教材としては、何よりもまず、リズムや調べに優れ、イメージを作りやすく、音読や暗唱に適する教材を選んだ。また、小学校ですでに触れている作品、日常生活の中で目にし耳にすることの多い作品、生徒たちにぜひ知ってもらいたい作品という点も配慮した。

②音読を重視するという立場から、また、生徒たちの学習への意欲づけを図るという考えから、韻文作品、それも生徒たちに親しみやすい現代詩、文語詩、和歌、俳句という順に配列し、学習の導入とした。一年生の学習の初めに、音読を中心とする学習、しかも一通り音読の練習をした後で自分の好きな作品を選んで音読発表をする学習を通して、生徒たちの声を出すことへの抵抗感を取り除くとともに、自己達成感を育み、個性の発揮を目ざした。

③音読を中心とする学習なので、作品のもつリズムに気づかせ、また読み方（文語の言葉遣い）に注意させたい。教師がゆっくり範読し、生徒たちに繰り返させる。そして、時間の許す限り、音読の練習をさせたい。

1年 第一時

学習活動

1 学年初めとなる学習の全体の概要を知る。

2 「春のうた」(草野心平)と「朧月夜」(高野辰之)の教師の範読を、情景を思い浮かべながら聞く。

3 教師の指示に従って、二つの詩を全員が声をそろえて読む。

4 好きな詩を選んで、声に出して読む

指導の内容・教師の発問・指導上の留意点・評価など

1 ここで扱う全教材のプリントを配り、どんな授業をするかについて説明する。その際、生徒たちが教材について、どのくらい知識をもっているか、簡単に確かめておく。

プリントを見てみましょう。前半に、詩が二編、和歌が三首、俳句が四句、随筆が二編、それに物語と漢詩、漢文が一編ずつ——と、あえて呼び方を出し、反応を確かめる——入っています。後半には「竹取物語」が入っています。今日から、前半四時間、後半四時間、このプリントを使って学習します。声に出して読むことが学習の中心です。それぞれの作品について気がついたことを発表してもらったり、好きな作品を読んでもらったりする学習もあります。では、今、配った作品の中で、知っているものはありますか。(詩、和歌、俳句、随筆、物語、漢詩、漢文のそれぞれについて「知っている」「習った」という声あり。)習ったことを思い出しながら学習しましょう。

2 生徒に情景を思い浮かべながら聞くように指示し、範読する。その後、二つの詩についての理解度を確かめる。

みなさんの中には、この二つの詩を「知っている」「習った」という人がいましたね。では、それぞれの詩にうたわれているのは何月の何時ごろでしょうね。どんな気持ちやどんな様子をうたっていますか。そのことがわかる言葉と一緒に言ってください。

3 「春のうた」は、まず「題名・作者名」を教師が読み、続いて生徒に読ませる。次に「前書き」「詞書」といってもいいかもしれない)を教師が読み、続いて生徒に読ませる。それから「連」ごとに教師が読み、続いて生徒に読ませる。「朧月夜」は、まず「題名・作者」を教師が読み、続いて生徒に読ませる。それから一行ずつ教師が読み、続いて生徒に読ませるといいう形をくり返す。

4 好きな方の詩を選ばせて、三、四人の生徒に音読させる。その際、どういうことを表現したかを話させる。

振り返り 気に入った詩を選んで、音読しようとしたか。

1年 第二時

学習活動

1 教師の和歌の範読を、情景や心情を想像しながら聞く。

2 各自で、和歌の音読練習をする。

3 好きな和歌を選んで音読する。

4 教師の俳句の範読を、様子を想像しながら聞く。

5 各自で俳句の音読練習をする。

6 好きな俳句を選んで音読する。

7 和歌と俳句の特徴について、気がついたことを発表する。

指導の内容・教師の発問・指導上の留意点・評価など

1 教師は、それぞれの歌にうたわれている様子は気持ちを想像しながら聞くように促す。そして、意味の切れ目に注意して、ゆっくり二回ずつ読む。

今日は、和歌と俳句の学習をします。両方とも、「知っている」「習った」と言った人がいましたね。最初に和歌の学習をします。先生がゆっくり二回ずつ読みます。横の訳も見ながら、様子や歌った人の気持ちを想像しながら聞いてください。

2 時間は五分程度。初めは意味の切れ目に注意し、小さな声(微音読)で歌のイメージを作るように。少し慣れたならば、はっきり声を出して読むように指示する。

3 一首につき、二、三名の生徒に音読させる。初めに、選んだ歌の好きなところや歌われている様子などを話させる。

4 教師は、それぞれの俳句に描かれている様子を想像しながら聞くように促す。そして、ゆっくり二回ずつ読む。

5 時間は五分程度。和歌のときと同じように、初めは小さな声(微音読)で、イメージができたところで、はっきり声を出して読むように指示する。

6 一句につき、二、三名の生徒に音読させる。初めに、好きなところや描かれている様子などを話させる。

7 概念的に「切れ字」や「季語」「句切れ」「枕詞」などを説明するのではなく、生徒が和歌や俳句の学習の中で具体的に見つけたものに即して話したい。生徒から、「切れ字」などの言葉が出た場合も、教材として提出されているものに即して説明したい。

和歌と俳句では、どんなところに違いがありますか。どんなところに特徴がありますか。気がついたことを発表しましょう。

今日は、和歌と俳句について学習しました。今日、学習したのは古いものばかりですが、新聞の「投稿欄」を見てみるとよいでしょう。和歌と俳句は今でも盛んに作られ、自然や社会や生活の様子、人の気持ちなどを描いています。

振り返り 和歌と俳句をイメージをふくらませながら音読したり、両者の違いについて考えたりできたか。

1年 第三時

学習活動

- 1 随筆「枕草子」と「徒然草」を、描かれている様子や筆者の気持ちを考えながら、教師の範読を聞く。
- 2 教師の指示に従って、二つの随筆の原文の部分を全員で声をそろえて読む。
- 3 二つの随筆について、言葉の響きやリズム、またその内容について気づいたことや不思議に感じたことなど感想を自由に発表する。
- 4 「平家物語」の教師の範読を、リズムに気をつけながら聞く。
- 5 教師の指示に従って、「平家物語」の原文の部分を全員で声をそろえて読む。
- 6 随筆と物語について、気づいたことを発表する。

指導の内容・教師の発問・指導上の留意点・評価など



1 古典のリズムや響きに注意しながら聞くように促し、一行ずつ、ゆっくり読む。  
今日は、随筆と物語の学習をします。最初は随筆です。一行ずつ、ゆっくり読みますから、現代の私たちが使う言葉との違いを考えながら聞いてください。

- 2 一行ずつ、ゆっくり教師が読み、続いて生徒が読む形で進める。「枕草子」を読み終えたら、その現代語訳を読んで聞かせ、「徒然草」を読み終えたら、その現代語訳を読んで聞かせる。
- 3 お互いの発表を聞き合うことで、自分では気づかなかったものの見方や捉え方などに目をむけさせ、新しい発見をさせた。

- 4 随筆との言葉遣いや文章のリズムの違いに注意することを促し、一行ずつ、ゆっくり読む。

- 5 一行ずつ、ゆっくり教師が読み、続いて生徒が読むという形で進める。全文を読み終えたら、教師が一行ずつもう一度読みながら、意味の大意を説明する。

- 6 言葉遣いについても、文章の内容やリズムについても、自由に発表させる。

振り返り

それぞれの随筆の特徴、物語の特徴を生かして音読しようとしたか。

1年 第四時

学習活動

- 1 漢詩と漢文とを、その独特なリズムや調子に注意しながら、教師の範読を聞き、意味の大意を知る。

- 2 教師の指示に従って、漢詩と漢文の「書き下し文」の部分を全員で声をそろえて読む。
- 3 各自で、漢詩と漢文の音読練習をする。
- 4 好きな作品を選んで音読する。

- 5 これまで学習した詩や和歌、俳句、随筆、物語、漢詩、漢文の中から最も気に入ったものを選び、音読発表をする。

指導の内容・教師の発問・指導上の留意点・評価など



1 一行ずつ、ゆっくり読む。漢詩を読んだ後に、一行ずつ意味の大意を説明し、漢文を読んだ後に、一行ずつその訳を聞いて聞かせる。  
これから、漢詩と漢文の学習をします。これについても、「知っている」という人がいましたね。両方とも、もとは中国で作られたものですから、漢字だけで書かれたものです。それを、ここにあるように、仮名を交えて日本語の語順に従って書き直した文を、「書き下し文」といいます。ゆっくり、一行ずつ読みますから、どんな様子が描かれているか、どんなところに特徴があるかに気をつけて聞いてください。

- 2 一行ずつ、ゆっくり読む。漢文については、特に各行冒頭の数字（年齢）と漢字で示されたところに注意を促す。

- 3 それぞれ五分ずつ、合計十分の時間をとる。初めは小さな声（微音読）で内容を考えながら読むように、文のリズムに慣れたなら、少し声を出して読むように指示する。

- 4 それぞれ、二、三名の生徒に音読させる。その際、意味の切れ目に注意して読むよう指示する。

- 5 初めに、自分の好きな作品を選び、練習する時間として五分ほど与える。それから、詩・和歌・俳句・随筆・物語・漢詩・漢文の順に好きな作品を選ばせていく。なるべく多くの作品を取り上げるようにしたい。

それでは、これから、今までに学習した詩や和歌、俳句、随筆、物語、漢詩、漢文の中から自分の好きなものを選んで音読する発表会をします。最初に、時間を五分ほどあげますから、自分の好きな作品を選んで、音読の練習をしてください。それから、時間の許す限り、多くの人に音読発表をしてもらいます。

振り返り

気に入った作品を選んで、音読することができたか。

1年 第五時

学習活動

1 「古典」について、知っていることを確認し、「古典」にはさまざまな種類の作品があることを知る。

2 教師の教材文（「竹取物語」）の範読を聞き、教材の概要を知る。

3 教師が「竹取物語」の冒頭部の原文を範読し、語釈を加えながら現代語訳をするのを聞く。

4 教師の指示に従って、「竹取物語」の冒頭部の原文を、全員が声をそろえて読む。

5 「竹取物語」の冒頭部の原文を、各自で音読練習する。

指導の内容・教師の発問・指導上の留意点・評価など

1 教材に入る前に、小学校で既に学習してきている生徒たちが、「古典」についてどの程度の知識があるのかを確認する。（知っていることを発表させる）。また、「古典」にはさまざまな種類の作品があることを説明する。

「古典」と呼ばれる作品について、どんな作品を知っていますか。また、それはどんなお話ですか。いつ頃の作品でしょうか。

「古典」にはさまざまな種類の作品があることがわかりましたね。それでは、その中の一つである「竹取物語」を読んでみましょう。

2 現代文で書かれた教材についての解説やあらすじはナレーターのように範読し、その後で補足説明をする。（難しい言葉について説明する程度にとどめる）。原文の部分は、特にゆっくり読む。

このお話は既に知っているという人もいましたね。自分の知っているお話と同じかどうか気を付けて、聞いてください。

3 原文を一行読み、続いて語釈を加えながら、その部分の現代語訳をするという形で進める。現代語訳は必要最低限にとどめ、極力、文法的な説明にならないよう配慮する。

4 一行ずつ、ゆっくり、まず教師が読み、続いて生徒が読むという形で進める。

5 意味の切れ目を考えながら、リズムよく読むように指示する。初めは小さな声（微音読）で、文のリズムに慣れさせ、すらすら（滑らかに）読めるようになったら暗唱に挑戦させる。

振り返り

自分の知っている話と同じかどうか気を付けて聞こうとしたか。

1年 第六時

学習活動

1 「竹取物語」冒頭部（今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。……）について、教師の範読を聞く。

2 教師が一文ずつ範読し、続いて全員が声をそろえて音読する。

3 自分一人で音読する。続いて、二人一組になって音読する。最後に、暗唱する。

4 この物語の登場人物について、想像する。

5 原文を読み、主人公がどこで生まれたかを確認する。

6 原文を読み、主人公がどのような様子で生まれてきたかを確認する。

指導の内容・教師の発問・指導上の留意点・評価など

1 「竹取物語」冒頭部を教師がリズムよく、滑らかに範読する。

2 意味の切れ目に注意して、教師が一文ずつ、ゆっくり読み、続けて生徒にゆっくり音読させる。

3 生徒一人一人が音読し、古典特有のリズムを味わう時間をとる。リズムに慣れてきたら、二人一組をつくり、一緒に音読させる。最後に、暗唱に挑戦させる。

4 冒頭部に出てくる登場人物について、どのようなことが書かれているかを答えさせる。

今、読んでもらったところには、どんな人物が出てきますか。何をしている人ですか。その人が何をしているときに、どんなことに出会いますか。

5 主人公が生まれた場所について、答えさせる。

6 主人公の生まれてきた様子について、答えさせる。（「三寸ばかりなる人」「いとうつくしうてゐたり」など）

振り返り

音読することに慣れ、登場人物についてイメージを作ることができたか。

1年 第七時

学習活動

1 「竹取物語」中間部（天人の中に、持たせる箱あり。……と言ひて、文書く。」について、教師の範読を聞く。

2 教師が一文ずつ範読し、続いて全員が声をそろえて音読する。

3 自分一人で音読する。続いて、二人一組になって音読する。最後に、暗唱する。

4 「かぐや姫」が求婚に応じない理由について考える。

5 「かぐや姫」を迎えに来た天人たちは、地上のことをどう思っているか。考えたことを発表し合う。

6 「かぐや姫」の気持ちを考え、その内容を発表し合う。

指導の内容・教師の発問・指導上の留意点・評価など

1 「竹取物語」中間部を教師がリズムよく、滑らかに範読する。

2 意味の切れ目に注意して、教師が一文ずつ、ゆっくり読み、続けて生徒にゆっくり音読させる。

3 生徒一人一人が音読し、古典特有のリズムを味わう時間をとる。リズムに慣れてきたら、二人一組をつくり、一緒に音読させる。最後に、暗唱に挑戦させる。

4 生徒に考えたことを発表させ合う。

「かぐや姫」は、どうして五人の貴公子や帝からの求婚に応じようとしなかったのでしょうか。

5 迎えに来た天人たちの地上への思いについて、「かぐや姫」への言動を手がかりに考えさせる。

天人のうちの一人が、壺に入っている薬を「かぐや姫」に飲ませようとしたのはどうしてだと思いますか。考えたことを発表してください。

6 月への迎えが来た「かぐや姫」の思いについて、考えたことを発表させる。

天人が天の羽衣を着せようとしたときに、かぐや姫が「しばし待て。」と言ったのはどうしてだと思いますか。音読することに慣れ、書かれている内容について想像をふくらませることができたか。

1年 第八時

学習活動

1 「竹取物語」昇天部（中将取りつれば……血の涙を流して惑へど、かひなし。」について、教師の範読を聞く。

2 教師が一文ずつ範読し、続いて全員が声をそろえて音読する。

3 自分一人で音読する。続いて、二人一組になって音読する。

4 「かぐや姫」と「翁・媪」の思いの差について考え、発表し合う。

5 自分なりの物語の別展開について考えてみる。

6 これまでに学習した「竹取物語」の原文の中で、一番気に入ったところを選んで音読発表をする。

指導の内容・教師の発問・指導上の留意点・評価など

1 「竹取物語」中間部を教師がリズムよく、滑らかに範読する。

2 意味の切れ目に注意して、教師が一文ずつ、ゆっくり読み、続けて生徒にゆっくり音読させる。

3 生徒一人一人が音読し、古典特有のリズムを味わう時間をとる。リズムに慣れてきたら、二人一組をつくり、一緒に音読させる。

4 まず、「かぐや姫」の思いについて、考えたことを自由に生徒に発表させる。次に、「翁・媪」の思いについて、考えたことを発表させ、その上で両者の思いを比べながら考えさせる。

5 「もし…」と仮定した別の展開を与え、その場合の話の続きを想像させ、自由に発表させる。

もし、天人が天の羽衣を「かぐや姫」に着せなければ、「かぐや姫」はどうしたと思いますか。自ら天の羽衣を着たでしょうか。それとも、おじいさんとおばあさんのもとへ残ったでしょうか。考えたことを自由に発表してください。

6 初めに、好きなところを選び、音読練習する時間を五分ほど与える。それから、音読の発表をさせる。

これから「竹取物語」の音読発表会をします。これまでに学んだ原文の中から読んでみたいと思うまとまりを選んで練習してください。これまでの学習で、原文をいくつかに分けて読んだことを思い出してください。分けて読んだところがひとまとまりです。

振り返り

教材の内容を理解し、好きなところを選んで音読をしようとしたか。